

## 金堂の建築

火災で破壊されてから1世紀以上が経った1603年に金堂が再建されたとき、設計者は東寺の遠い過去の建築様式と最新の革新技术を組み合わせた。その建物は、安土桃山時代（1573-1603）に発展した壮大で時代を揺るがす建築物の傑作と考えられている。このデザインは背の高い柱と大仏様と和様のシンプルな彫刻のラインを組み合わせたものになっている。外壁、梁、装飾はもともと明るい色の装飾で覆われていた。2つの屋根は、外からは二重に見えるが、その2つの屋根のうちの下屋根は装飾である。内部は高さ12メートルの1つの部屋になっている。建物の正面の装飾が施された下の方の屋根は、中央部分には、奈良の東大寺大仏殿と宇治の平等院鳳凰堂にも見られる特徴である高く設置された小さな窓がある。この窓はこの場所で式典が行われる際には開放され、内部の仏像に光が当たるようになっている。